

ごみを減らせる別の方法も知りたいな!

自宅でもごみを資源に

生まれ変わらせる方法



ごみを資源に

ごみと資源物をきちんと分別する。そこからさらに一歩進めて、ごみを資源として生まれ変わらせる取組みとし

生ごみ処理容器の購入費助成

▼購入費の2分の1、電源を必要とするもの=上限2万円(5年以内に1基)、電源を必要としないもの=1基につき上限5000円(5年以内に2基まで)、100円未満の端数は切り捨て、■予算の範囲内で随時先着順に受付。申請は2月末まで。申請手続き前に購入すると助成は受けられません。■環境政策課に設置の申請書(市ホームページからダウンロード可)に必要事項を記入し、同課

て、生ごみ処理容器の利用を紹介します。生ごみ処理容器には、電源を必要とする方式としない方式のものがあり、どちらも生ごみの体積を大幅に減らすとともに、処理後の生ごみはたい肥として利用することができます。市では、生ごみ処理容器の購入費用の一部を助成しています(左上参照)。

生ごみ処理容器で資源循環生活

馬場輝子さんは、平成17年に電源を必要とする生ごみ処理容器を購入しました。馬場さんは、「それまでは、生ごみは直接庭に穴を掘って埋め、家庭菜園のたい肥として利用していました。でも、直接埋めると夏に虫がわくので困っていたんです。その問題が生ごみ処理容器で解決され、今では1年を通して安心してたい肥を活用できています」と話します。

馬場さんは、毎日生ごみ処理容器を運転させます。処理後の生ごみの体積は半分以下に減り、枯れ葉のような力加減した手触りに変わります。庭に穴を掘って処理した生ごみを入れ、土



馬場輝子さん



畑の肥料として再利用できるなんてすてき!



①生ごみ処理容器。高さ30cm程度の大きさ。②乾燥させた生ごみは庭の穴に入れる。③乾燥後の生ごみ。これがたい肥になる。

をかぶせると、生ごみは約半年で土になじみ、たい肥になります。そのたい肥を利用して、野菜や花を育てています。「生ごみをたい肥として使うと、化学肥料はほとんど必要ありません。家庭菜園で採れた野菜は、安心して家族が食べることができるのが魅力なんです」と話す馬場さん。その野菜を料理したあとに出る生ごみは、また、たい肥として利用するので、自宅の中で資源が循環しています。

馬場さんは、生ごみは「ごみ」ではなく、「たい肥として使う資源」として考えてきたと言います。「生ごみはすべてたい肥化するので、我が家から出る普通ごみはかなり少ないですよ。生ごみは資源に変えて、循環させるという考えが多くの人に広まればいいですね」と微笑みました。